

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報の送付について

病害虫発生予察特殊報（第 1 号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成 28 年度 病害虫発生予察特殊報（第 1 号）

平成 28 年 10 月 20 日

愛 媛 県

病害虫名 チャトゲコナジラミ (*Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai)

作物 チャ

特殊報の内容 愛媛県におけるチャでの発生被害の初確認

1 発生地域 大洲市

2 発生経過

平成28年8月、大洲市のチャにおいて、コナジラミ類の発生が疑われる情報に基づく現地調査の結果、幼虫の寄生及び下位葉のすす病被害を確認した（写真1、2）。採集した幼虫を農林水産省神戸植物防疫所に同定依頼した結果、9月13日に県内未発生のチャトゲコナジラミであることが確認された。その後、9～10月に県内の主産地で発生調査を行ったところ、発生程度は極めて低いが、四国中央市、久万高原町、内子町、西予市、松野町のチャにおいても寄生を確認した。

本種は、チャ等のツバキ科植物に寄生する害虫で、国内では平成16年に京都府で初めて発生が確認されて以来まん延し、現在は関東以西のチャ産地を中心に分布が拡大している。

本種は、当初ミカントゲコナジラミのチャ系統とされていたが、平成23年3月に新種となるチャトゲコナジラミとして命名された。

3 形態及び生態

成虫の体長は、1.1～1.3mmで、前翅は紫褐色で不整形の白斑があり、白粉で覆われている（写真3）。幼虫は、主に下位葉の葉裏に寄生する。扁平な紡錘型で光沢のある黒色周囲にリング状の白いロウ物質を纏い、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有している（写真1）。ふ化直後は歩行移動するが、定着後は移動しない。4齢幼虫を経て成虫となる。

国内の茶園では年3～4世代を経過する。幼虫態で越冬するが、卵や1、2齢幼虫（若齢幼虫）は寒さにより多くが死滅する。翌春の成虫の発生時期は、一番茶新芽生育期とほぼ一致する。

4. 被害の特徴

チャの他、サザンカ、ヒサカキ、サカキ、シキミ等にも寄生する。

成幼虫とも葉裏に寄生し、成虫は新芽、幼虫はすす葉に寄生する習性があり、大量の甘露を排泄するため葉の表面に「すす病」（写真2）が発生する。

5. 防除対策

10月～3月のマシン油乳剤の散布は、越冬中の老齢幼虫に対する防除効果が高いため、発生園では必ず実施する。

翌春以降、マシン油乳剤以外の農薬を散布する場合、防除適期は若齢幼虫発生期（目安：成虫発生が収まった頃）となる。但し、薬剤感受性の低い老齢幼虫の混在や成虫発生が著しいと防除効果が低下するので注意する。



写真1 葉裏に寄生した幼虫(左)、幼虫の拡大(右)



写真2 チャトゲコナジラミが排出した
甘露によって発生したすす病



写真3 チャトゲコナジラミ成虫
(原図：京都府茶業研究所)

表1 チャトゲコナジラミに登録のある主要薬剤 平成28年9月21日現在

| 薬剤名 | 使用時期 | 倍数 | 使用回数 |
|----------|----------|--------------|------|
| アプロード水和剤 | 摘採14日前まで | 1,000倍 | 2回以内 |
| コテツフロアブル | 摘採 7日前まで | 2,000倍 | 2回以内 |
| ロディー乳剤 | 摘採 7日前まで | 1,000～2,000倍 | 1回 |
| ダントツ水溶剤 | 摘採 7日前まで | 2,000倍 | 1回 |
| ハチハチ乳剤 | 摘採14日前まで | 1,000倍 | 1回 |
| コルト顆粒水和剤 | 摘採 7日前まで | 2,000～3,000倍 | 2回以内 |
| ディアナSC | 摘採 前日まで | 2,500～5,000倍 | 1回 |
| トモノールS | 5月～9月 | 100～150倍 | — |
| | 10月～3月 | 50～100倍 | — |
| アタックオイル | 4月～9月 | 100倍 | — |
| | 10月～3月 | 50～100倍 | — |
| ハーベストオイル | 5月～9月 | 100～150倍 | — |
| | 10月～3月 | 50～100倍 | — |

【参考資料】

防除方法についての詳細は、農林水産省のHP(下記ホームページアドレス)を参照。
技術情報等にある「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」の各編
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryoku2/>